

## 神奈川県環境学習リーダー会の発足と変遷

### ■ 当会発足の背景

1970年代(昭和45年代)から1980年代には、地球上の天然資源枯渇や自然環境の破壊、地球温暖化問題、オゾン層破壊など環境問題が注目されました。1990年代には「国連環境開発会議(地球サミット)」が開催され「環境と開発に関するリオ宣言」と行動計画「アジェンダ21」が採択。日本では「公害」から「環境」の機運にあり、神奈川県では1991年に環境科学センターを設立するなど、「かながわ環境学習プラン」が策定されました。環境保全活動は「自ら学び、行動へ」の重要性から、環境科学センターが「環境学習リーダー養成講座」を1993年(平成5年)に開設しました。

### ■ 当会の発足

当会の発足は、環境科学センターが1993年9月～10月に実施した「第1回 環境学習リーダー養成講座」修得者の有志が、講座を修得した直後に「エコ・1」会を結成しました。講座修得者たちは、この「エコ・1」を地域環境活動メンバーとし、環境科学センターとの連携組織として「環境学習リーダー連絡会」を同年12月に設立しました。この連絡会の設立が当会創設のルーツです。創設者の代表は古澤正文氏です。

### ■ 当会の主な変遷

当会の設立当初は、会員たちが地域の環境活動など情報を持ち寄って、議論を重ねながら環境学習リーダーのフォローアップ方策を思案しました。思案の成果として、県内各地域で自主的に環境保全活動に取り組んでいるグループ活動や研究成果の発表と意見交流の場として1995年に「第1回市民環境学会」(2001年「市民環境活動報告会」に改称)を環境科学センターと共催にて開催しました。その後、「環境学習リーダー連絡会」が環境学習の先駆者として果たす役割りは如何にあるべきかを模索する時期が続きました。

1998年に「環境科学センター」と協働体制を設定。会員が持つ知的財産の専門性を具体的な実践活動に展開するべく部会制を構成し、1998年後の数年には、「廃棄物部会」、「ケナフ部会」、「エネルギー部会」、「自然環境部会」、「大気環境部会」、「グリーン部会」などを設立しました。これら部会による子ども環境体験教室や環境イベントなどの開催を重ねて活動内容が充実化されました。2007年9月5日(平成19年)にはNPO法人とし名称を「神奈川県環境学習リーダー会」に改称しました。その後の環境学習活動は、自然保護、温暖化抑制、省エネ、水生生物保護、廃棄物リサイクルなど自然科学や科学実験を駆使した体験教室やイベントを展開しました。

2013年に「横浜こども科学館」と環境体験教室の連携を協定。2018年度には行政、学校、地域団体での体験教室や環境イベントを70回規模に拡大し、2020年には26回目の市民環境活動報告会を開催しました。これら業績に神奈川県や環境省から環境保全功労賞を受賞しました。当会は、地域環境活動のリーダーとして、広報展開、環境体験教室の拡充、部会構成の改編(2023年)など、持続可能な開発目標を共有しつつ、さらなる活動内容の充実化を目指した環境活動を展開しています。市民環境活動報告会は形骸化、組織弱体により38回以降の開催を中止(2024年)しました。次ページ以降に、当会の主な変遷と、更に詳しい年表を示しました。

## 神奈川県環境学習リーダー会の主な変遷

- 1993・H5 : 「環境学習リーダー連絡会」設立
- 1994・H6 : 会報「エコ・1」創刊
- 1995・H7 : 「市民環境学会」開催協力
- 1998・H10: 「環境科学センター」協働体制設定、会員数 140 名
- 2000・H12: 「ケナフ部会」、「環境モニタリング部会」、  
「エネルギー部会」、「自然環境部会」発足
- 2001・H13: 「市民環境学会」を「市民環境活動報告会」改称
- 2002・H14: 「環境学習リーダー会」改名  
「環境科学センター」子ども環境体験教室に開催協力
- 2004・H16: 「大気環境部会」、「水環境部会」発足  
「かながわ地球環境賞」、「暮らしの工夫展賞」受賞
- 2005・H17: 「グリーン部会」、「廃棄物部会」発足
- 2007・H19: 「NPO 法人 神奈川県環境学習リーダー会」法人設立
- 2008・H20: 「かながわコミュニティカレッジ」開催
- 2009・H21: 「神奈川県環境保全功労者賞」受賞
- 2010・H22: 「市民環境活動報告会」実行委員会主催
- 2013・H25: 「横浜こども科学館」環境体験教室を運営協定
- 2015・H27: 会報「環境リーダーNews」改名、ロゴマーク設定
- 2017・H29: 環境大臣賞「地域環境保全功労者賞」受賞
- 2018・H30: 「夏休み子ども環境体験教室」主催、ホームページ刷新
- 2019・H31・R1: 「大気・水環境部会」改称、会員数 75 名
- 2020・R2: 新型コロナ感染拡大、教室・イベント中止、報告会延期
- 2021・R3: 総会・理事会オンライン開催、体験教室オンライン開催
- 2022・R4: 部会運営委員会設置、環境体験教室 YouTube 報告
- 2023・R5: 部会を改編、「エネルギー部会」、「生物部会」、「水・大気部会」
- 2024・R6: 「市民環境活動報告会」開催中止、会員数 51 名

備考・当会創設者古澤正文氏「会報 100 号に寄せて」(2017 年 10 月号)に掲載  
・当会の創設と変遷を「会報 112 号の Leaders TOPICS」(2020 年 10 月)に掲載

# 神奈川県環境学習リーダー会の変遷年表

代表者名	邦歴年	西暦年	主な出来事
古澤正文	平成 5	1993	・12月:「第1回環境学習リーダー養成講座」の講座修得者が、「環境学習リーダー連絡会」を設立(年次開催開始)
古澤正文	6	1994	・7月:会報「エコ・1」発刊
古澤正文	7	1995	・2月:「第1回市民環境学会」共催(年次開催開始) ・4月:「総会」開催(年次開催開始)
佐伯秀夫	8	1996	
上野和雄	9	1997	
田口 汎	10	1998	・5月:「廃棄物・リサイクル部会」設立 ・5月:「環境科学センター」と協働体制設定
天谷芳夫	11	1999	・2月:ホームページ開設、会員 140 名
天谷芳夫	12	2000	・4月:「ケナフ部会」設立、「環境モニタリング部会」設立、「エネルギー部会」設立、「自然環境部会」設立
清水幸夫	13	2001	・2月:「市民環境学会」を「市民環境活動報告会」改称
清水幸夫	14	2002	・4月:「環境学習リーダー連絡会」を「環境学習リーダー会」改称 ・6月:「子ども環境体験教室」共催(年次開催開始)
近藤作司	15	2003	・4月:「地域活動サポート部」設立 ・9月:「環境実践者養成講座」一部を当会受託(年次開催開始)
近藤作司	16	2004	・5月:「環境モニタリング部会」を「大気環境部会」分設、「水環境部会」分設 ・12月:「かながわ地球環境賞」受賞、横浜市「暮らしの工夫展賞」受賞
安丸元一	17	2005	・5月:「グリーン部会」設立、「廃棄物リサイクル部会」を「廃棄物・GO3 部会」改称
安丸元一	18	2006	
吉田栄一	19	2007	・9月:NPO 法人設立、「神奈川県環境学習リーダー会」改称、会員 154 名 ・10月:「定款」制定
吉田栄一	20	2008	・1月:「第1回かながわコミュニティカレッジ」開催(年次開催開始)
斉藤昭一	21	2009	・11月:「神奈川県環境保全功労者賞」受賞
斉藤昭一	22	2010	・2月:「市民環境活動報告会」主催移行
斉藤昭一	23	2011	
柳川三郎	24	2012	
柳川三郎	25	2013	・4月:「横浜子ども科学館」と環境体験教室連携協定 ・6月:「ケナフ部会」を「子どもサイエンス部会」改称
柳川三郎	26	2014	
柳川三郎	27	2015	・1月:会報「環境リーダーNews」改名、ロゴマーク設定 ・4月:所在地「横浜市緑区竹山」設定
柳川三郎	28	2016	・9月:「廃棄物・GO3 部会」を「廃棄物部会」改称
田口繁雄	29	2017	・6月:環境大臣賞「地域環境保全功労者賞」受賞 ・6月:「子どもサイエンス部会」休部
田口繁雄	平成30	2018	・6月:「大気環境部会」休部、会員 78 名 ・11月:ホームページ刷新
田口繁雄	31/1	2019	・6月:「大気・水環境部会」改称、寄付金募集
田口繁雄	令和 2	2020	・4月:新型コロナウイルス感染拡大、教室・イベント中止



代表者名	邦歴年	西暦年	主な出来事
田口繁雄	令和3	2021	・5月:総会・理事会などオンライン開催 ・11月:体験教室オンライン開催
田口繁雄	令和4	2022	・10月:部会運営委員会設置
吉岡嗣二郎	令和5	2023	・1月:部会改編、「エネルギー部会」、「生物部会」、「水・大気部会」、3部会制
吉岡嗣二郎	令和6	2024	・3月:「市民環境活動報告会」開催中止、会員51名
吉岡嗣二郎	令和7	2025	